日本史における地域社会

社会科教育講座・川岡勉

対象学生は学校教育教員養成課程および情報文化課程の３回生であり，受講者は１１名（学校教育教員養成課程１０名･情報文化課程１名）であった。

授業内容は，社会科における基本的な教養として，地域に視点をすえながら日本史の流れと日本社会の特質を理解させることを目的とし，(1)瀬戸内海・伊予を舞台に展開した地域の歴史に関する基礎的な知識を獲得する，(2)地域史を他の地域や国家・世界との関わりにおいて捉える視点を獲得する，(3)地域の歴史を踏まえて，これからの地域のあり方や改革の方向について，自分の考えをまとめ論述する力を身につける，という到達目標を設定した。

授業の構成は，次のとおりである。

1　はじめに
2　地域史を捉える視座
3　愛媛のあけぼの
4　古代国家と伊予国
5　中世社会の成立と西国武士団
6　中世後期の地域社会
7　近世社会の成立と展開
8　近世伊予の町と村
9　近代への歩み
10　近代の愛媛県
11　現代の愛媛県
12　各自の研究発表１
13　各自の研究発表２
14　各自の研究発表３
15　各自の研究発表４

授業の進め方として，最初の２回は地域史とは何かを説明し，地域史を捉える視座について講義を行なった。３回目以降は，内田九州男・寺内浩・川岡勉・矢野達雄『愛媛県の歴史』（山川出版社，2003 年）をテキストとして用い，受講生全員があらかじめテキストを読んできて，それに基づいた発表を順番に行ない，発表をうけて討論を進める形で授業を展開した。また，テキストの理解をより深めるために，適宜，必要な資料を掲載したプリント類を配布した。

９章からなるテキストを通じて伊予国・愛媛県を舞台とする地域の歴史を学んだ後，最後の４回は各自が関心をもつ地域史について調べて研究発表を行なう時間に充てた。学生たちは，テキストの中で関心を抱いたテーマとして，畿内王権と瀬戸内海交通，久米官衙遺跡，伊予市五色浜伝説，道後湯築城跡などの研究に取り組み，あるいは自らの出身地や身近な地域を取り上げて，松山市富久町，同末広町，今治城と五十嵐山，空海と善通寺，広島市安芸区矢野，広島県府中市出口町，松江城と不昧公などを題材に報告を行なった。ほとんどの学生がパワーポイントを活用して工夫をこらした研究発表であり，地域に寄せる熱い思いを語る学生もいた。何冊も文献を読んだ者，専らインターネットで調べた者，現地を歩いて新鮮な発見があった者など，報告の中身は様々であったが，それぞれ熱心に地域史の研究に取り組んでいた。

授業終了後にレポートを提出させ，授業中の発表と討論の状況を加味して総合的に判断して成績評価を行なった。

最終回にアンケートをとり，授業改善に向けて意見を聴取した。地域史というテーマ自体が興味のわく内容だったようで，身近でありながら知らないことが多く色々と発見があったと答えた学生が少なくなかった。後半に研究発表の形式を取り入れたのは今年度からの試みであったが，学生には好評で，意欲的に取り組むことができたようである。

歴史は自分たちには縁遠くよそよそしいもの，関係ないものという見方を克服し，１人１人が歴史を切り開く者としての主体性や能動性を身につけていく上で，地域史の学習は大きな可能性を持っている。また，愛媛県内の教員になることを希望する学生が多いことからみて，地域史に関する知識を獲得すること自体が必要であろう。今回の授業を通じて地域史の面白さを伝えることはできたと思われるが，地域の素材を手がかりに歴史を復元する技法や能力を育成するために，工夫を重ねていきたいと考えている。